

花茎の伸長が遅い春作用ヒロシマナ系統の育成

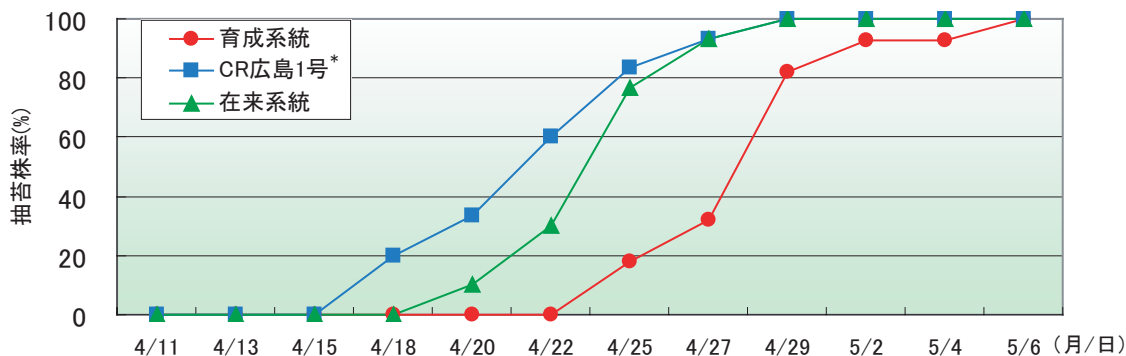
ヒロシマナの春作では花の開花時期となるため、収穫期における花茎の伸長（抽苔）が問題となっています。そのため産地からは春作に適した抽苔の遅い（晩抽性）品種が望まれています。育成系統は市販品種または在来系統より晩抽性を示し、形態及び食味は従来のヒロシマナと同等の品質を有しています。

● 育成系統の特性

- ★晩抽チンゲンサイとヒロシマナとの交配により育成しました。
- ★従来の市販品種、在来系統と比べて約5～7日程度抽苔が遅い。
- ★外観特性および漬物加工後の食味はこれまでのヒロシマナとほぼ同等です。
- ★温暖地における秋作（10月中旬定植・年明け収穫）でも利用が可能です。



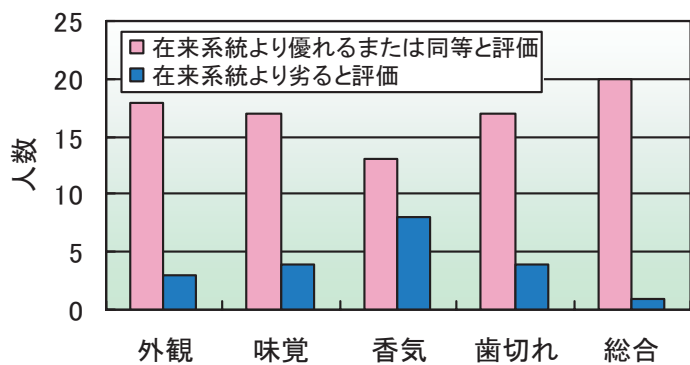
育成系統の外観



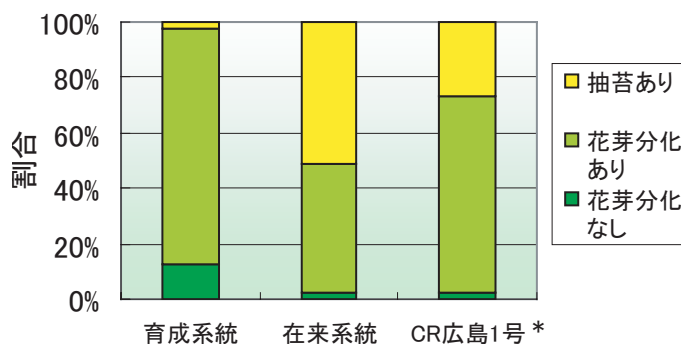
春作における育成系統と市販品種・在来系統の抽苔特性比較

試験場所:東広島市八本松町, 播種:1月28日, 定植・トンネル:2月24日, トンネル除去:4月8日

*「CR広島1号」は農業技術センターで育成された根こぶ病抵抗性品種です



育成系統の食味評価



年明け収穫の作型における抽苔特性

試験場所:広島市安佐南区, 播種:10月1日, 定植:10月18日, 調査:1月28日

*「CR広島1号」は農業技術センターで育成された根こぶ病抵抗性品種です